

令和3年度第3回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和3年8月19日（木）午前9時30分から10時30分

と ころ：市役所5階 505会議室（WEB会議）

1 出席者

小平市社会教育委員	9名
傍聴者	2名

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

(1) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

(1) 第33回小平市青少年音楽祭

【公民館】

(1) 公民館主催イベント（9月）

【図書館】

(1) 展示「絵本で知る世界の国々～IFLAからのおくりもの～」(報告)

(2) 絵本の読み聞かせ入門講座（報告）

<その他>

特になし

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

<事務局報告>

【地域学習支援課】

○第33回小平市青少年音楽祭

委員 大人数の来場が予想されるが、例えば成人式で行ったような配信という形式も考慮してみてはどうか。

事務局 会場であるルネこだいらで収容人数が半数であれば開催ができるとのことで座席の指定を行い、工夫しながら実施していきたいと考えている。オンラインでの配信は今のところ考えていない。新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら今後調整していきたい。

○姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業

委員 前回の会議で、小平町との交歓交流事業は工夫して進めたいとのことであったがどのような結果になったのか。

事務局 現在進んでいない状況である。小平町とも引き続き調整を図っていきたい。

【公民館】

○公民館主催イベント（9月）

委員 単に中止にするのではなく、なんとか実施をということで進めていただいているのがすごくいいなと思った。Zoomの許容人数と実際にどのくらい募集をかけるのか。また広報をどのようにするのか。

事務局 Zoomの申込みの定員は設定していない。参加人数については今現在講師と調整をしている状況である。広報については、近隣の小・中学校にチラシを配布している。

委員 Zoomは職員が行うのか、それとも外部業者に委託するのか。

事務局 今回のオンライン事業については職員が全て対応する。

委員 『宇宙飛行士になろう』という講演会はタイムリーでとてもいい企画だと思う。

Zoomは一般的になってきたとは思いますが、対象である小学4年生から中学生までがそれをすぐに活用できるのか。学校においてもZoomをどのように使用したらいいか等学ぶ機会はあるのか。

事務局 学校において今年度からGIGAスクール構想に伴い、一人一台パソコンが配付されている。授業への活用についても5月くらいからスタートし始め、その中にはGoogle Meetを使用して授業や校内の全体で集会のようところで活用したり等進んでいる。中学生くらいになってくると、少しずつ活用もスムーズにできるようになっているので今回の講座においてもスムーズに導入できるのではないかと考えている。

委員 学校で使用するタブレットは学校内だけなのか。自宅に持ち帰り等しないような構想になっているのか。

事務局 現時点においては学校内での使用に限定している。持ち帰りについては課題を捉えて検討している。

委員 Zoomの配信方法についてウェビナーで配信するのか。それともミーティングルームを作って双方向でやりとりするのか。

事務局 双方向である。

委員 公民館だよりに記載の『事業企画委員会』であるが、初めは在り方検討委員会のようなところから取り上げられたと思うが、負担感がかなり大きいと思う。どのような方法を今後とっていくのか。

事務局 事業企画委員の負担感や色々な課題は認識している。各館の委員と意見交換の場を設け、実際の現場の意見を聞くことができたので、よりよい形でできるよう今後検討を進めていく。

委員 各公民館で事業企画委員が考えた講座ですごくいい企画があると思う。公民館で開催する事業の約85%の講座を企画するとあるが、年々アイデアが少なくなってくると思うので、各公民館でこれまでの企画を共有してみてもどうか。

【図書館】

○展示「絵本で知る世界の国々～IFLAからのおくりもの～」(報告)

委員 コロナ禍で母国に帰れない外国人の方が沢山いると思うので有難く思った方がいると思うが、来場者の中に外国人の方は何人いたか。

事務局 外国人の方が何人来場したかは把握していない。

○絵本の読み聞かせ入門講座(報告)

委員 読み聞かせなどもZoomもしくは学校ではGoogle Meetがメインなので、Google Meetで読み聞かせをするような企画を考えていただきたい。

事務局 図書館でも少しずつZoom等での行事を行っている。読み聞かせについては実際の対面での活動が難しい状況であるため、そういったものの使用の可能性を研究していく。